

地震



過去を知る

過去に起こった南海地震の震度は、宝永地震では、高知市内で6強〜7、四万十市中村、宿毛市大島7、室戸6強〜6弱、夜須町は6弱でした。安政の地震では、四万十市中村で震度7、宿毛市などで6強、高知市内は6強で大火が発生、夜須町は5強でした。昭和南海地震では、幡多地方で揺れが大きく、四万十市中村が震度7、高知市内は5弱程度、夜須町は5強でした。

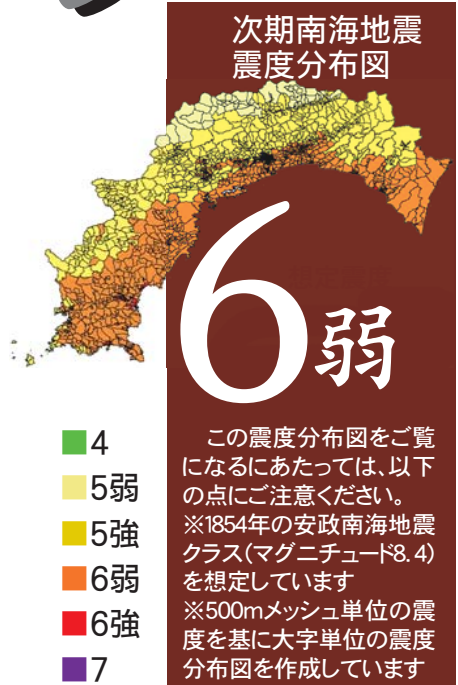
尋常ではない揺れが襲う！

阪神淡路大震災での犠牲者は、建物倒壊などの圧死が83.5%で、亡くなった人の80.5%が最初の15分間に命を落としています。防災グッズも必要ですが、役に立つのは「生きる」ことが大前提。まず、家具の固定や、家が倒壊しないよう補強する必要があります。

市では、家具の転倒防止金具の設置補助や、家屋の耐震診断補助、耐震改修工事費の補助などで地震対策を推進しています。

今一度、家屋や家具を点検し地震で圧死しない対策をとってください。家が倒壊すれば机の下に隠れていても安全ではありません。むしろ外に出る方が安全です。

震度	現象や被害の発生状況
4	●ほとんどの人が驚く ●電灯など吊り下げたものは大きく揺れる ●座りの悪い置き物が倒れることがある
5弱	●大半の人が、恐怖を覚え、ものにつかまりたいと感じる ●棚にある食器類や本が落ちることがある ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある
5強	●ものにつかまらないうと歩くことが難しい ●棚にある食器棚や本など、落ちるものが増える ●固定していない家具が倒れることがある ●補強されていないブロック塀が崩れることがある
6弱	●立っていることが困難になる ●固定していない家具大半が移動し、倒れるものもある ●ドアが開かなくなることがある ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある ●耐震性の低い木造住宅は、瓦が落下したり、建物が傾いたり、倒壊するものがある。
6強	●はわなにと動くことができない ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山林の崩壊が発生することがある
7	<p>阪神淡路大震災の震度 ●耐震性の低い木造住宅は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くものがある ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える</p> <p>東日本大震災の震度</p>



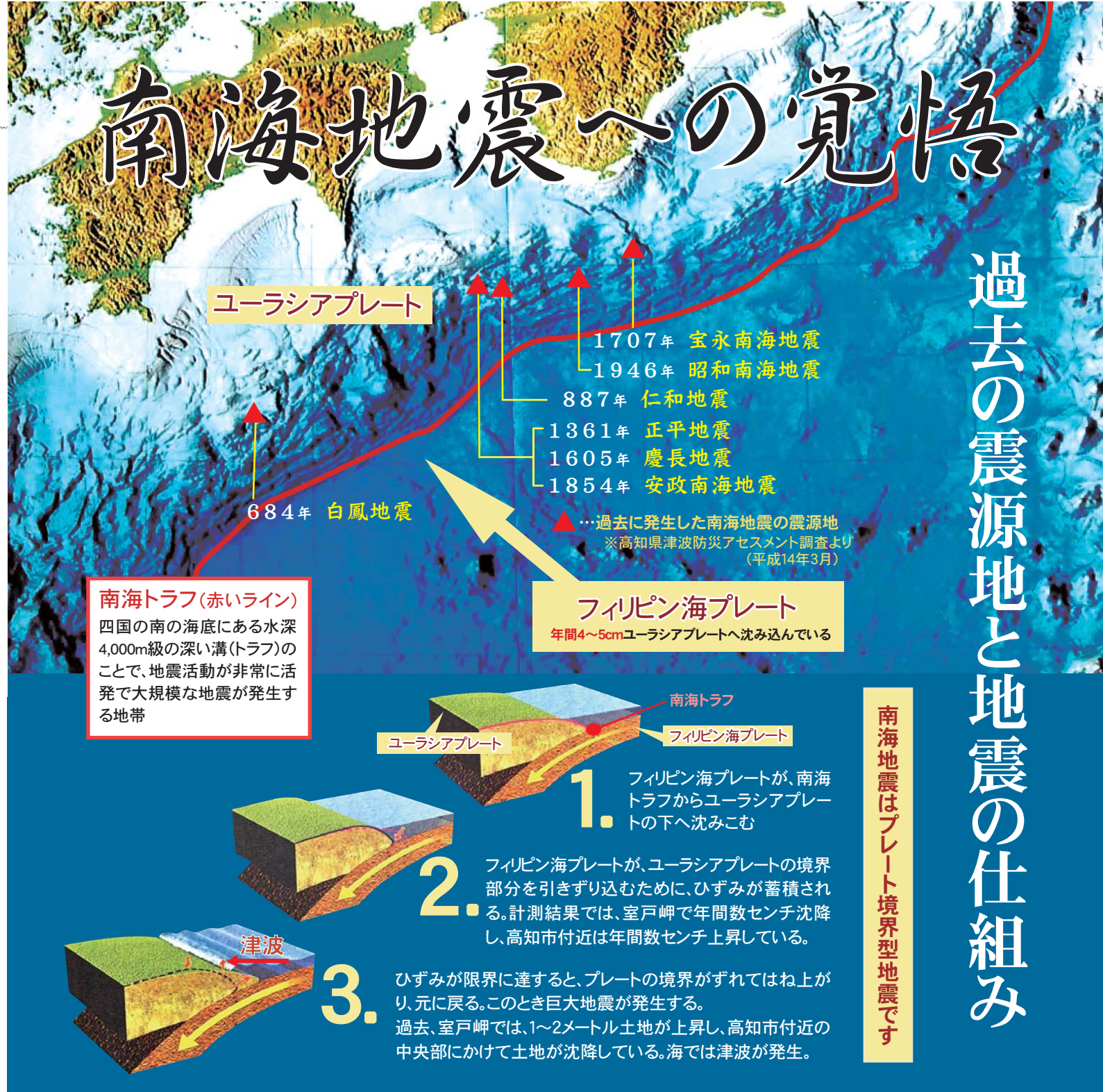
マグニチュードは「地震の規模」を表す単位で、震度は観測地点による「揺れの大きさ」を表します。
※高知県津波防災アセスメント調査(平成14年3月)より

▶右の写真は、災害応援協定を締結している福島県鏡石町の被災の様子です。町は内陸部に位置し、津波の影響はありませんでしたが家の瓦は落下し、ブロック塀は倒壊、自動販売機なども倒れていました。
この地域での震度は6強を観測。揺れは約2分間続きました。



南海地震への覚悟

過去の震源地と地震の仕組み



南海地震はプレート境界型地震です

南海地震の発生確率は30年以内に60%

1月12日に政府の地震調査委員会が、今年の1月1日を基準日とした長期評価による地震発生確率を公表しました。それによると、今後30年以内に南海地震が発生する確率は、昨年の「50%〜60%」から「60%程度」に高まりました。「昨年が「50%程度」であったことを考えると、着実に、南海地震は近づいています。

今世紀前半に発生？

専門家は、昭和南海地震が、M8.0とエネルギーの放出が少なかったとして、次の南海地震までの発生間隔を90年前後と予想しています。また、地震の規模はM8.4、東南海地震と同時発生の場合、M8.5と予測。さらに、東海地震の今後30年以内の発生確率は、87%と非常に高く、3つの地震が連動する可能性も危惧されています。

●地球は10数枚のプレートで覆われており、陸地や海はその上に乗っています。私たちの住む日本は、4つのプレートの上に乗っています

